

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520668

研究課題名(和文) 中学校英語テキストの類型化に基づくリーディング中心のタスクの開発研究

研究課題名(英文) Development of Pedagogical Reading Tasks for EFL on the Basis of Genre-Text-Types of Junior High School English Textbooks

研究代表者

酒井 英樹 (SAKAI, Hideki)

信州大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：00334699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主目的は中学校の英語教科書のテキストの類型化に基づき、読む・書くという文字を媒介としたコミュニケーションの領域におけるタスク開発を行うことであった。タスクとリーディングに関する研究を整理し、「ジャンル・テキストタイプ」という談話構造の特徴に焦点を当てることにした。平成18年度及び平成24年度の中学校英語教科書を修辭的構造及びジャンル・テキストタイプの点から分析をし、中学校の英語教科書のテキストの類型化を試みた。大学生及び大学院生を対象に実施した調査結果に基づいて、類型化に基づくタスクの例を示した。さらにジャンル・テキストタイプを核としながら英語でリーディングを指導する方法を提案した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project was to create pedagogical tasks that involve written communication (i.e., reading and writing) on the basis of types of texts in junior high school textbooks. First, I reviewed previous studies on tasks and reading and clarified the concept of genre/text type in the literature. Then, I analyzed the junior high school textbooks of 2006 and 2012 in terms of genre/text types and found several frequently used types. Further, I carried out a survey to undergraduate and graduate students and investigated the language acts and purposes according to typical genre/text types. Based on the results of the survey, I provided an example of creating tasks. I proposed a reading instruction focusing on the genre/text types.

研究分野：英語教育学

キーワード：外国語教育 教育課程・カリキュラム論 タスク リーディング

1. 研究開始当初の背景

タスクとは、学習者が目標言語を用いて遂行する課題のことであり、広義にはコミュニケーション活動であると考えられる(白畑他, 1999)。コミュニケーション活動と異なるのは、(1) 文法形式よりも意味内容が重視される、(2) 達成されるべき課題が明確である、(3) 現実世界の日常的な行為と関連性がある、(4) 目標言語を用いて行われる、(5) 何をどのように言うかは学習者によって決められる、という特徴を持つことである (Shiokawa, Sakai, & Urano, 2005)。

タスクに基づく外国語教授法は、コミュニケーション能力を育成するための外国語教授法が発展した方法であり、また第二言語習得理論の支持を得て世界中で注目を浴びている (Richards & Rodgers, 2001, p. 223)。日本の英語教育においても、習得したことを活用できる力の育成が求められており、タスクを含むコミュニケーション活動が重要視されている。例えば、平成 24 年度から施行された中学校学習指導要領・解説では、「『聞くこと』、『話すこと』、『読むこと』及び『書くこと』の 4 技能の総合的な指導を通して、これらの 4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。」(p. 3) とされている。

タスクを支える認知心理学や第二言語習得の理論研究、タスクの効果に関する実証的研究や実践・開発研究が、聞く・話すという口頭のコミュニケーション (oral communication) を取りあげて行われてきた (例, Ellis, 2003; Skehan, 1998; Willis, 1996)。日本においては、高島 (1995, 2000, 2005) が文法項目と口頭のコミュニケーションに焦点をあててタスクの開発を試みている。しかしながら、読むことや書くことを中心とするコミュニケーションに焦点をあてたタスクについてはあまり研究されていない。近年、Willis & Willis (2007) がタスクに基づく言語教育に関する著書の中で、書かれたり読まれたりするテキストを用いたタスクについての章 (Tasks based on written and spoken tasks) を設けたことを考慮すると、読むことや書くことを中心とするコミュニケーションに焦点をあてたタスクの開発の重要性は高いと考えられる。また、Willis & Willis (2007) の「書かれたテキストを用いたタスク」であっても、テキストのジャンル・テキストタイプを考慮されたタスクは提案されていない。テキストに書かれた内容を活用していくタスクとなっている。よりコミュニケーション的なタスクにするためには、手紙や物語、報告、スピーチといったジャンル・テキストタイプごとにタスクを開発することが重要である。例えば、手紙文に対しては返事を書くというタスクは自然であるが、物語に対し

て返事を書くというタスクは不自然である。そこで、本研究では、テキストの類型化に基づき、読む・書くという文字を媒介としたコミュニケーション (written communication) の領域におけるタスク開発を行うことを目的とした。

2. 研究の目的

本研究の主目的は、中学校の英語教科書に基づき、リーディング中心のコミュニケーション・タスクを開発することである。リーディングを中心としたタスクの開発に応用することによって口頭のコミュニケーションに偏っていたタスク研究の成果をより発展させることが可能であると考えられる。さらに、英語教科書に基づいたリーディングを中心とするタスクを開発し、あわせてタスクを用いた指導方法を研究することによって、中学校における 4 技能を統合した言語活動を提案することができ、英語教育の改善に貢献する研究であると考えた。

3. 研究の方法

上記の目的の遂行のために、具体的には、タスクとリーディングに関する研究を整理すること、中学校の英語教科書のテキストの類型化を行うこと、タスクの開発を行うこと、そして、タスクの形成的評価を実施することを具体的な目的とした。実際には、タスクとリーディングに関する研究を整理する中で、「ジャンル・テキストタイプ」という談話構造の特徴に焦点を当てることになった。また、中学校英語教科書の分析の先行研究の概観を行った。さらに、中学校英語教科書を修辭的構造及びジャンル・テキストタイプの点から分析をした。また、タスクの作成に関しては、現実社会のタスク (ターゲットタスク) を意識するために、ジャンル・テキストタイプに関わる言語行為についての調査を大学生及び大学院生を対象に実施した。その結果に基づいて、中学校英語教科書に頻繁に見られるジャンル・テキストタイプについて、類型化に基づくタスクの例を示した。さらに、ジャンル・テキストタイプを核としながら英語でリーディングを指導する方法の提案を行った。

4. 研究成果

(1) 概念整理

先行研究に基づき、概念整理を行った。その結果、次のようにされた。ジャンルは、談話構造の一側面であり、ジャンルとはある特定のコミュニケーション上の目的 (communicative purpose) を反映したテキストの構成方法として捉えられる。また、また、社会的な行為や出来事としても捉えられる。本研究では、「ジャンル」と単独で表記せず、「ジャンル・テキストタイプ」という言い方を採用する。

(2) ジャンル・テキストタイプの重要性

さらに、中学校学習指導要領を概観し、1990年代には「まとまりのある英語」を扱った言語活動を行うことが示されており、2000年代に入り言語使用の場面や働きに重点が置かれ、ジャンル・テキストタイプに応じた言語活動を行うように示されるようになったと言える。さらに、2010年代に入り、その指針が明確になったと言える。つまり、ジャンル・テキストタイプの指導の重要性を指摘した。

(3) 中学校の教科書研究の概観

中学校英語教科書の分析を行った先行研究の概観をまとめた結果、さまざまな観点から教科書分析が行われてきたにも関わらず、ジャンル・テキストタイプに注目した教科書分析研究が欠如していることを指摘した(酒井・和田, 2012)。

(4) 中学校英語教科書のジャンル・テキストタイプ分析

酒井・和田(2012)では、平成18年度版中学校英語教科書にどのようなまとまりのある英語が扱われているのかを調べた。分析の結果、比較的多様なジャンル・テキストタイプが用いられていることがわかった。また、社会的行為や目的が明確でない基本的なジャンル・テキストタイプも見られた。頻度の高いジャンル・テキストタイプは、会話、スピーチ、自己紹介、放送、散文、電子メール、手紙、ウェブサイトであった。6社の教科書すべてで扱われているジャンル・テキストタイプは少なかった。これらの分析結果に基づき、教育的示唆を行った。

さらに、平成24年度(2012年度)から使用されている中学校英語教科書をジャンル・テキストタイプの点から分析した。平成18年度版の教科書との相違点・類似点を指摘した。

(5) ジャンル・テキストタイプの言語行為とタスク作成の例

中学校英語教科書分析によって明らかになったジャンル・テキストタイプを取り上げて、どのようなコミュニケーション上の目的が期待されるのかについての基礎資料を得るため、質問紙票調査を行った。

調査協力者は、信州大学教育学研究科英語教育専修の大学院生6名と「英語科評価論」受講生である信州大学教育学部の大学生31名であった。

中学校英語教科書のジャンル・テキストタイプの分析において、10種類のジャンル・テキストタイプを選んだ(物語や小説、伝記、脚本(劇、ドラマ、映画)、ノンフィクション、物語・小説・伝記・脚本・ノンフィクションなどの要約、解説、報告、日記、はがき・手紙・メール、詩)。これらのジャンル・テキストタイプについて、読んだことに基づい

て行う行為や、読んだり書いたりする目的について、次の2種類の質問を行った。自由記述回答を求めた。

結果として、物語や小説、伝記、脚本(劇、ドラマ、映画)、ノンフィクション、物語・小説・伝記・脚本・ノンフィクションなどの要約、解説、報告、日記、はがき・手紙・メール、詩に関する回答をまとめた。

例えば、物語や小説についての言語行為は、読みに焦点があてられたタスク、読んだ後に表出するタスク、自分の考えに関するタスク、その他にまとめられた。さらに、現実タスク(ターゲットタスク)と教室内タスクを設定する例を示した。

例

現実タスク

○物語・小説を読み、自分の好きな言葉を抜き出して、facebookの中の「好きな言葉リスト」に加える。

教室内タスク

○物語・小説を読み、印象深い表現を抜き出す。

例

現実タスク

○ポップを書く。

教室内タスク

○読んで、要約する。

○読んで、進める・推薦文を書く。

(5) ジャンル・テキストタイプを核としたリーディング指導の提案

ジャンル・テキストタイプを核としながら英語でリーディングを指導する方法の提案を行った。ジャンル・テキストタイプに基づく読み方を、リーディング指導の展開に位置付けた。

引用文献

Ellis, R. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford University Press.

Richards, J. C., & Rodgers, T. S. (2001). *Approaches and methods in language teaching* (2nd ed.). Cambridge University Press.

Shiokawa, H., Sakai, H., & Urano, K. (2005). Tasks in English language teaching. 『北海学園大学学園集』123号, 123-137.

白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則. (1999). 『英語教育用語辞典』大修館書店.

Skehan, P. (1998). *A cognitive approach to language learning*. Oxford University Press.

高島英幸. (1995). 『コミュニケーションにつながる文法指導』大修館書店.

高島英幸. (2000). 『実践的コミュニケーション能力のための英語タスク活動と文法指導』大修館書店.

高島英幸. (2005). 『文法項目別 英語のタスク活動とタスク 34 の実践と評価』大修館書店.

Willis, J. (1996). *A framework for task-based learning*. Pearson Education.

Willis, D., & Willis, J. (2007). *Doing task-based teaching*. Oxford University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

酒井英樹・和田順一. (2012). 中学校英語教科書のジャンル・テキストタイプ分析. *JALT Journal*, 34, 209-238.

査読有

http://jalt-publications.org/jj/issues/2012-11_34.2

Wada, J., & Sakai, H. (2012). An analysis of junior high school textbooks of English in terms of rhetorical organization. *中部地区英語教育学会紀要*, 41, 139-146.

査読有.

http://ci.nii.ac.jp/els/110009553362.pdf?id=ART0009997638&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1434334293&cp=

[その他]

研究成果報告書『中学校英語テキストの類型化に基づくリーディング中心のタスクの開発研究』2015.3. (全 49 頁)

研究成果報告書『訳さない、訳させない、でも理解させる英語リーディング指導 MERRIER Approach を活用した指導 (ペーパー版)』2015.3. (全 138 頁)

6. 研究組織

(1)研究代表者

酒井 英樹 (SAKAI, Hideki)

信州大学・学術研究院教育系・教授

研究者番号：00334699